

# ジョン・ウドウンの指導者哲学 ～“ONE-ON-ONE”の翻訳を通して～ John R. Wooden's coaching philosophy

島崎直樹<sup>1</sup>、川井明<sup>2</sup>  
Naoki Shimazaki<sup>1</sup>, Akira Kawai<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科

<sup>2</sup> 武蔵丘短期大学健康生活学科

<sup>1</sup> Faculty of Medical Technology, Teikyo University, 359 Otsuka, Hachioji, Tokyo, Japan

<sup>2</sup> Faculty of Healthy life, Musashigaoka College, 111-1 Minamiyoshimi, Yoshimi, Hiki, Saitama, Japan

## Abstract

John R. Wooden has legendary success as the best sports coach of the 20th century. His Pyramid of Success is one of the most popular and effective teaching philosophies. Coach Wooden taught this principle to basketball players, but it applies to everyone and every environment. In this study, we will explore his coaching philosophy while reading John R. Wooden's "ONE-ON-ONE" (1st to 30th items in the first half).

キーワード：ジョン・ウドウン、指導者哲学、バスケットボールコーチング

Keywords: John R. Wooden, Coaching philosophy, Basketball coaching

## 1. 緒言

### 1.1 本研究の目的と方法

我々バスケットボールのコーチは、ゲームを行う限りにおいて常に勝利したいと考え、これまでの経験における失敗や学び、プレーヤーたちとの多くの時間共有の中で技術や戦術の指導を繰り返し積み重ねる努力を行っている。

バスケットボールの勝利や敗北は、決められた時間の中において規則に沿ったプレーを行い、得点の差が生まれることで決着する。ゲーム終了の40分間際まで優勢に進めていた展開が残り数秒で逆転され敗北することもあれば、前半と後半の形勢が大きく変化しその流れを断ち切れずにタイムアップしてしまうこともある。

指導の大半は、ゲームにおける様々な局面の中で相手のプレーにどのように対応すべきか、ショットの確率をどのようにプレーすることで向上させることができるのか、などの技術戦術指導に時間が割かれる場合が多いであろう。残り数秒で得点された場面を振り返り、二度と同じ失敗を犯すまいと対策をとり、試合の流れを崩さない安定した守りの仕組みを考えるのである。

当然ながらコーチのやるべき仕事を考えれば妥当ともいえる指導であろう。しかしながら、現代のスポーツ事情を俯瞰したときに、特に中学、高校、大学などの教育機関における部活動運営の中には、勝利至上を最大の目標値と考え、子供たちの失敗を許容せずに体罰や暴力、ハラスメントなどの不祥事に発展する事例が多数報告されてきている。勝利を繰り返し、全国大会で入賞することでコーチの立場が保証されたりする場合や、プレーヤーの進学先に有利な条件が付与されることも考えられる。

スポーツの教育的価値については、オリンピック憲章をはじめ、スポーツ基本法や各種スポーツ団体から発出され、スポーツを行うことによる人的関係や社会との関わり、生きる喜びや健康を高める機会の創出など、近年数多くのメッセージを目にすることができる。

さてジョン・ウドウンは、バスケットボール競技に限らず、全ての競技種目を超越した20世紀最高の指導者である。長年の指導者経験から構築し完成させた「成功のピラミッド」は、彼の代名詞ともなっている。我が国においても、さまざまな指導者育成の現場で「成功のピラミッド」が幅広く活用されている。彼の著書「THE

WOODEN-SHARMAN METHOD (1975)」を、日高が「プレイヤーとコーチのための図解バスケットボール」(日高明：ベースボールマガジン社、1976.)として、「Practical Modern Basketball (1979)」は、武井らが「ジョン・ウドゥン UCLA バスケットボール」(武井光彦、内山治樹、杉浦弘一、柴田雅貴：大修館書店、2000.)として、また「Wooden (1997)」を弓場が「育てる技術」(弓場隆：ディスカヴァー出版、2014.)として、翻訳出版され紹介されている。近年ではスポーツ界のみならず、ビジネス界でのビジネス・コーチングにおいても注目されるようになってきている<sup>1)</sup>。これまでの研究では、ウドゥンが94歳(2005)に出版した“COACH WOODEN'S PYRAMID OF SUCCESS”を紐解き、その指導者哲学について理解することを目的とした<sup>1) 2)</sup>。本研究では、“COACH WOODEN ONE-ON-ONE (2003)”を翻訳し、さらにウドゥンの指導者哲学を深く理解することを目的とする。この著書は、ウドゥンが共著者であるジェイ・カーティートともに、スポーツ指導への価値観や情熱、責任など、指導哲学に関する多くのことを60項目(Day1～Day60)で語られている。敬虔なキリスト教信者であるウドゥンとカーティートの哲学の基盤はキリストの教えである。今回、訳出するのは、ウドゥンが執筆担当した文章に限定し前半の第1項目から30項目(Day1～Day30)である。

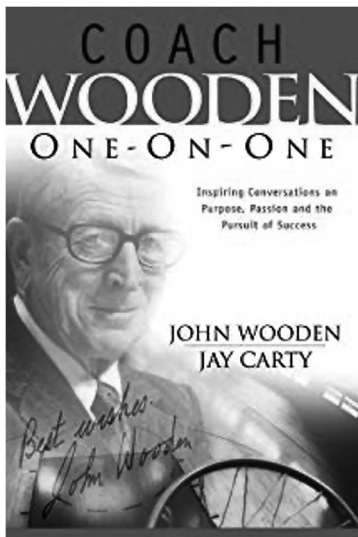


写真1 原著表紙

## 2. COACH WOODEN ONE-ON-ONE

### 2.1 86400秒

愚かな者としてではなく、賢い者として、細かく気を配って歩みなさい。時をよく用いなさい。今は悪い時代

なのです。(エフェソの信徒への手紙5章15～16節)

失われた時間は永遠に消えてしまいます。人によっては、今日はしなかったことを補うために翌日2倍懸命に働くと自分に言い聞かせています。人々は、常に最善を尽くすべきなのです。もし翌日2倍頑張れるのであれば今日も2倍頑張るべきなのです。それが最善を尽くすということです。翌日懸命に働くといってもその遅れを取り戻すことはできません。先延ばしにして翌日2倍の努力をするという考えを持つ人々は、自分自身をごまかし逃げているのです。

ほとんどの若者は一生懸命に働く方法を知らず、そして多くの人々はただ時間が経過することだけに満足をしています。私はプレイヤーの2回目の良い行動を受け入れません。「最初に正しくやる時間がないなら、いつそれをやる時間を見つけるのですか?」と彼らに尋ねます。

私は、プレイヤーが日常生活において、3つの分野で一生懸命に学ぶことを要求しました。確かに、彼らが目に見える物理的に自分自身を最大限に活かすことも望んでいましたが、精神的および感情的に学ぶことも望んでいました。1番目が学業、続いてバスケットボールが2番目で、プライベートが3番目になるように求めました。これには基本的な規律が必要です。体調の管理はバスケットボールをプレーするにはもちろん必要ですが、それはまた他の分野にも役立ちます。

学業で良い仕事をするために、彼らはメンタル・コントロールを展開する必要がありました。その結果、私のプレイヤーのほとんどが卒業することが出来ました。間違いを避けて集中力を維持するために、彼らは感情的なコントロールも必要でした。それを達成するには大変な労力が必要です。3つの分野をコントロールすることで、プレイヤーは大学においても、コートの上でも、そしてプライベートにおいても集中することができました。

### 2.2 いつまでも若々しく

老いた者には知恵があり、命の長い者には悟りがある。(ヨブ記12章12節)

毎朝、聖書を読むようにしています。それから新聞を開きます。はじめに1面の見出しから興味のあるものを探します。その後、多くの人が私はスポーツ欄を読むと思うでしょうが、その日のクロスワードパズルに取り組みます。それからブリッジ・ゲームをちらっと見ます。ブリッジで遊ぶのが楽しい時もありました。これらのセ

クションを読んで最新の状態を保ちながら、次にスポーツ欄に移動します。朝食の前にそれを読み流し、食後に徹底的に読みました。

私が読んだものは新聞だけではありません。新刊も少なくとも月に1冊は楽しみました。今日よりも早く読むことができ、より良い状態を保つことができる時には、もっと多く読むこともありました。もちろん、私の読書はすべて印刷された言葉であり、昔ながらの方法です。インターネットは素晴らしいアイデアですが、私がそれを十分に活用するには遅すぎました。

私は自分の能力を失いつつありテクノロジーは私を追い越しましたが、私は動揺するつもりはありません。それは自然で普通の生き方です。私は現実を受け入れます。それにもかかわらず、私はまだ自分の能力は自分が持っていることで最善を尽くし続けます。じっとしていません。私は常に前進しようとしています。学び続けたい。機能させ続けたいのです。私ができる限り最高になるように、常に努力することを積み重ねたいのです。

### 2.3 偉大な言葉

互に愛し合うことの外は、何人にも借りがあってはならない。人を愛する者は、律法を全うするのである。(ローマ人への手紙13章8節)

「愛」は、私たちの言語の最大の言葉です。愛があれば多くの問題は無くなります。愛に道があれば違いは管理することが可能です。私の愛への敬意は、聖書、特に愛の章であるコリント第一13章を読んだことから来ると思います。愛せずに与えることはできますが、与えることなしには愛することはできません。実際、愛は誰かに与えない限り何もありません。

退役軍人の病院を慰問するのが好きですが小児病院にも訪れます。いつも子ども達に特別な愛と共感を持っていました。よく新生児を腕に抱くことができた時代を思い出します。特に、宇宙飛行士のサリー・ライド (Sally Ride) とスタンフォード大学のバスケットボールのコーチであるマイク・モンゴメリー (Mike Montgomery) を赤ちゃんの頃に抱いていたことを覚えています。

ウッドマン・バスケットボール選手権大会 (Wooden Classic Basketball Tournament) の主催者が、収入の一部を子どもの病院に寄付することを決めたとき私は大変喜びました。今日、子ども達のスペシャル・オリンピックに出場するための資金になっていることも嬉しい限りです。子どもに関連した仕事は私にとって特別な魅力があります。これらの慈善活動を通して、子ども

達への愛を示すことは私をとっても幸せにします。お金が子ども達の問題のすべてを解決させるわけではないことを知っていますが、確実に彼らの生活を良くするのに役立つのです。

### 2.4 神の計画

主は言われる、わたしがあなたがたに対していただいている計画はわたしが知っている。それは災を与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、あなたがたに将来を与え、希望を与えようとするものである。(エレミヤ書29章11節)

これまで「神の言葉」を思い出す出来事はありませんでしたが、「神の手」に気づいたことがあり、神が働いていたことを振り返ることができます。

1944年、第二次世界大戦中に私は南太平洋のUSSフランクリン (アメリカ海軍航空母艦) へ搭乗するように命令されましたが緊急手術のためキャンセルされました。虫垂が破裂したのです。その作戦中に私の交代要員が私の戦闘ステーションに配置され、彼は神風特攻隊の突入により戦死しました。

それから数年後、キャンベル・カレッジ (ノースカロライナ州ローリー) で行われるバスケットボール・サマーキャンプの為に、アトランタからローリーまで移動する必要がありました。私は予め土曜日に行く予定でしたが紛争のためにその時点で出発が出来ず、フライト・チケットをキャンセルし翌日に同じフライトを予約しました。その搭乗するはずであった土曜日の飛行機が墜落し全員が死亡したのです。翌日、墜落現場の上空を飛行しながら人間の命や人生の本質を考えるようになりました。私は神とその計画について深く考え、なぜ神が私をそうさせたのかと疑問に思いました。

人が運を信じていれば、そのような出来事は運と見なされるかもしれません。しかし、死からあからさまに引き渡されることを2度繰り返して私は立ち止まって熟考しました。私はそれを単なる偶然として却下できませんでした。いいえ、運よりも私の人生で神の手が働いていた可能性が高いのです。神は私のために計画を立てていました。

### 2.5 そんな時

神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。(ローマ人への手紙8章28節)

二人目の子どもの出産時から、完全な昏睡状態となり91日後、妻のネリーが私の手を絞って目を開き素晴らしい表情を見せました。その時のことを今でも忘れることはありません。ものすごい気持ちでした。あちこちへうずくまりました。それは単なる感情以上のものでした。この体験は精神的に深いものでした。

1982年にネリーは股関節置換術を受けました。手術の途中で彼女は心臓発作を起こし昏睡状態になりました。3か月後、彼女は目を覚まし家に連れて帰ることができました。

彼女は完全に回復することはありませんでしたが、徐々に回復していきました。1984年のクリスマスに娘のナンシーの家を訪れました。家族の全員がそこに集まり素晴らしい夜を過ごしながらネリーは幸せそうでした。その後、自宅に連れて帰った翌日の午前中に彼女の容体が酷くなり病院に連れて行きましたが、1985年3月21日まで昏睡状態を続け帰らぬ人となりました。娘のナンシーの誕生日に妻ネリーを失いました。神はネリーの苦しみを解放させ、私は人生のパートナーを失いました。

私はチャールズ・ディケンズ (Charles Dickens) の序盤の「二人の物語」を読むのが好きで、ネリーと私の最高の時間を思い出します。私にとって彼女を失うことは最も悲しいことでした。

## 2.6 まずはじめに

その夜、神はソロモンに現れて言われた、「あなたに何を与えようか、求めなさい」。(第二歴代誌1章7節)

生活のためにあなたが人として生きることを妨げないでください。人々は家族と十分な時間を過ごしません。物質的なものに巻き込まれ、それらが人生を構成すると考えています。物質的な所有物の追求は、信仰、家族、友人など、永続的なものよりも優先されることがよくあります。あなたの家族に混乱が起こらないように、小さな価値を求めないでください。

人生の早い段階で、私は「家族」を「信仰」の前に置きました。私はそれをその後修正しましたが、「仕事」は常にリストの4番目にありました。ネリーがインタビューに、「ジョンが良い練習をしたのか、悪い練習をしたのかはわからなかった。家に持ち帰ったことがないからです」と、語ったことを誇らしく思いました。

私は現在、「信仰」を一番目に考えていますが、私が指導したプレーヤーの一人であるスウェン・ネーター (Swen Nater) によって書かれたこの詩は、順序が変

わったほうが読みやすいでしょう。神は理解するだろうと思います。

「家族」、「信仰」、「友人」  
家族、信仰、友人をください  
私が愛するすべてです  
私がベビーベッドから墓まで切望し  
私が優先するすべてです  
繁栄よりも  
家族、信仰、友人をください  
数え切れないほどの富や  
つかの間の金品は魅力的ではありません

悪名ではなく  
家族、信仰、友人をください  
世俗的な名声は  
あなたが見るものと比較しません  
家族、信仰、友人をください  
彼らは私の優先事項です  
自分の中で知ることになるだろうし  
私はきっとそうなるでしょう

スウェンは、このメモを詩に付けました：  
「親愛なるコーチそして先生、あなたがこれを実践したことに感謝します。」

## 2.7 神に問う

すべてこの事においてヨブは罪を犯さず、また神に向かって愚かなことを言わなかった。(ヨブ記1章22節)

私は信仰を決して失いませんでしたが、人生において3回の悲しみから神に疑問を投げかけることがありました。ネリーが亡くなったのは初めてでした。私たちは53年間連れ添っていました。彼女以外の人とはデートをしたことはありません。彼女を失ってから2年以上がたちますが、いまだに悲しみを乗り越えることがありません。

2番目は私のひ孫が先天性障害で生まれたときでした。私の孫娘は非常に強く、私は彼女に感謝していますがその状況に疑問を投げかけました。

3番目は弟が亡くなった時でした。彼は病気ででしたが、それがそれほど深刻だとは思いませんでした。最後の呼吸をしたとき、私は彼の手を握りながら驚きました。繰り返しますが、私は神に質問しました。私は神の存在や神との関係を疑いませんでしたが、悲しみの中で神の行

動に疑問を投げかけました。

私はいつも感情をコントロールすることの重要性を伝えてきましたが、悲しみに対処する必要がありました。悲しみが私を支配したときもまた質問をしました。悲しみをコントロールできたとき、神は私よりもはるかに偉大であるという現実を取り戻すことができ、その時点で理解できなくても、神の行動を受け入れなければならないことがわかりました。

## 2.8 優しさの強さ

主の僕たる者は争ってはならない。だれに対しても親切であって、よく教え、よく忍び、(テモテへの第二の手紙2章24節)

エイブラハム・リンカーン (Abraham Lincoln) は、かつて「優しく、しかししっかりした、確実な手」を、持つことの重要性について書きました。中国の作家であり医師でもあるハン・スイン (韓素音) は、「世界には優しさほど強いものはない」と言いました。それらの言葉は私に父を思い起こさせます。

父は私に多くの影響を与えました。彼は肉体的には強かったが巨大な男ではありませんでした。彼は力点の使い方を知っていたので強い人にはできないものを持ち上げたり、動かしたりすることができました。彼はパワフルでしたが、彼はまた親切で穏やかでした。

父が誰かについて不親切な言葉を言うのを聞いたことも、彼が口汚い言葉を発するのを聞いたこともありません。父がある馬と一緒に働いていたとき彼の優しい心を見ました。

ある青年が興奮した馬たちを鞭打ちながら、砂利の穴から出させようとしたのを覚えています。彼らはお互いに引っ張り合い、前後にジャンプして接触し、足を踏み鳴らしていました。父は青年のところに行き、「連れて行こう」と言うとき馬の間に立ちました。父は馬が汗をかき装具を踏みついている間、馬の頭の間に頭を挟んでそれぞれに話しかけ、軽くたたくことによって父は馬を静かになだめました。それから父は馬の後ろに行き、手綱を取ってすぐに砂場から馬を引き出しました。父の優しさがすべてに違いをもたらしました。

優しさほど強いものは無く、父はこの原則の縮図でした。

## 2.9 神からの恩恵

わが子よ、わたしの教へを忘れず、わたしの戒めを心にとめよ。(箴言3章1節)

私が小さな田舎の学校を卒業したとき、父は私に二つのことを授けてくれました。1つは2ドル札です。彼は、「これを維持する限り、決して身を崩すことはないだろう」と言いました。父はカードもくれました。片側にはヘンリー・ヴァン・ダイク (Henry Van Dyke) の詩がありました。

「男が学ばなければならない4つのこと」

人生をもっと真実にしたいなら：

明確に混乱することなく考えるために、

仲間を心から愛するために、

正直な動機から純粋に行動するには、

神と天国を信用する。

カードの反対側には、父の七か条がありました。

- 1) 自分に忠実であること。
- 2) 他人を助けること。
- 3) 毎日を平和に暮らすこと。
- 4) 聖書から深く学ぶこと。
- 5) 友情を育むこと。
- 6) 雨の備えをすること。
- 7) 神のお導きの為に毎日祈り、神の恩恵に感謝すること。

父が私にメモをくれたとき、「息子よ、これらのことをやってみてください」とだけ言いました。初期の頃にはそれほど意味がありませんでしたが、人生の後半には意味あるものとなりました。その紙が擦り切れるまで財布に入れて持ち運び、何度かコピーする必要があり、今日でも財布の中にコピーがあります。

人々は私に尋ねます「あなたはその信条を生かしていますか？」

私は、「いいえ、それほど生かしてきたわけではありません。しかし、試しました！」と言います。

## 2.10 内面の美しさ

この律法の書をあなたの口から離すことなく、昼も夜もそれを思い、そのうちにしるされていることを、ことごとく守って行わなければならない。そうするならば、あなたの道は榮え、あなたは勝利を得るであろう。(ヨシュア記1章8節)

私は農場で育ちました。小学校の頃、父のジョシュ

ア・ウッドエンが、毎晩私と兄弟に読み聞かせをしてくれました。目を閉じれば父のその姿を思い描くことができます。父が読書に力を入れているため、私たち4人全員が英文学を主専攻または副専攻にしています。

ゴミのような本がたくさん出版されていますが良い文献もたくさんあります。表紙だけで本を決して買わないでください。重要なのは内部にあるものです。「親愛なる主よ、私に内面の美しさを与えてください。」と、ダイニング・テーブルで本を読みながら願っています。私には本棚がいくつかあります。そのうちの3つには前面に刻まれた言葉があります。「良い本、特に聖書から読み込もう」と書かれています。私の父は毎日聖書から私たちに読んでくれました。私はその実践を大学でも続け生涯続けました。愛する妻ネリーと私は一緒に神の言葉を読み子ども達にも聖書を読みました。他の2つの本棚には、「バランス」と「愛」という言葉が刻まれています。私たち全員が愛を持っていれば多くの問題はないでしょう。バランスは、バスケットボールで最も重要であり人生においても非常に重要な要素です。感情のコントロールを維持できるように、全ての物事を常に視野に入れなければなりません。

私は歴史小説や伝記が好きですが何よりも詩を好んでいます。ビクトリア朝時代と初期のアメリカの詩人が好きです。

## 2.11 強力な原則

わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。(テモテへの第二の手紙4章7節)

父は私に強力な原則を伝えました。私は今日までもその言葉をよく使いました。私の成功の素晴らしい原則である2組3セットを忘れないでしょう。

嘘をつかない。泣き言を言うな。  
騙さない。文句を言わない。  
盗むな。言い訳をしない。

父は、「嘘をつかないなら、あなたが言ったことを覚えておく必要はないだろう」と言い、また、「他の人よりも上手になろうとしない。常に他者から学び、あなたができる最高のものになることをやめない。」と付け加えました。

最善を尽くすことは本当に成功を定義します。父はこの詩を子どもの頃に読んでくれました。

告白する神の足台で  
貧しい魂がひざまずき頭を下げた  
「失敗しました」と彼は叫んだ  
主は言いました  
「あなたはあなたのベストを尽くした」  
「それは成功です」

現在90歳の私は父の期待に応えてたことを父に伝えたい。また、私はジョン・ニュートン (John Newton) も好んでおり彼にも感謝をしています。

私は本来あるべき姿ではない  
私は自分になりたいものではない  
私はそうなるつもりはない  
しかし私は感謝しています  
私は以前よりも良くなっています

正しいことをしようとするのをやめたことはありません。神に好意を得るためにそれをやっていません。それは正しいことだからです。地上の父と天の父は、何も期待していません。

## 2.12 勇気のある女性

その子らは立ち上がって彼女を祝し、その夫もまた彼女をほめたたえて言う、「りっぱに事をなし遂げる女は多いけれども、あなたはすべてのにまっさっている」と。(箴言31章28～29節)

世界で最も重要な職業は子育てです。両親は子どもの最初のコーチです。私は素晴らしいコーチに恵まれました。みなさんは私の父についてすでに知っているのですが、母について少しお話しします。

母のロキシー・アンナは一生懸命働き、長時間の缶詰、料理、裁縫、修繕、洗濯をしました。彼女には4人の息子がいましたが、電気も家庭の配管もほとんど便利ではありませんでした。私は何年もの間、母のことを頻繁に話さなかったことを感じました。母は、私たちが日曜学校に行くことを勧める素晴らしい母親でした。私たちがボーチで休んでいた夜には御馳走も用意してくれました。

母は熟練した裁縫師であり町の人々のために裁縫をたくさんしました。彼女はクローゼットの中に吊るしたアイテムをほとんど作りました。

また、彼女は私に古いホースにボロ布を詰めて最初のバスケットボールを作ってくれました。振り返ってみる

と、それは不可能ですがドリブルの真似をすることが好きだったことを覚えています。母は無限の忍耐力を持つ女性であり、非常に懸命に働き不平を言いませんでした。彼女がハードワークは人生の一部であると教えてくれました。

私の母にとって人生で最も精神的な負担は2人の娘、私の姉妹を亡くしたことでした。コーディリアはジフテリアで亡くなったとき3歳でした。別の娘は彼女が名付けられる前に亡くなりました。この2つの出来事は、母を傷つけ彼女は永遠に肩に喪失感を抱いていました。

私たち4人の男の子は、全員優秀な学生であり、私たちの1人が何かに認められた場合、母親は他の3人についても素晴らしいことを人々に知らせるように常に注意しました。彼女は私たちの間に平等であることを意識しました。

箴言の31章は素晴らしい妻についてです。その文章で言及されているすべてのことは、私の母に適用されています。

### 2.13 逆境の克服

わたしの兄弟たちよ。あなたがたが、いろいろな試練に会った場合、それをむしろ非常に喜ばしいことと思いなさい。(ヤコブの手紙1章2節)

私が少年の頃、家庭は貧しかったのですが必要なものはありました。物質的な所有物の不足を逆境とは考えませんでした。振り返ってみると時代は大変だったことに気づきますが、当時はそうは思いませんでした。

豚はコレラを発症し、干ばつは全ての作物を枯らし農場を失い町に移動しました。それでも厳しい条件とは考えていませんでした。そう思うことが必要でした。大恐慌とその余波を生き抜いた多くの人々が人生をそのように見ていると思います。

私が成人になり、家族が直面した課題に会い、貧しさと共存することをすぐに学ばなければなりません。ネリーと私が結婚する数日前に、銀行の破綻により私の人生の貯金\$909.05を失いました。これは当時の大金でした。とにかく結婚できるようにと、友人が私たちに現金を貸してくれました。私は第二次世界大戦で戦うために出征し、戻ったとき別の経済的問題が待ちました。銀行が私たちの家を差し押さえていました。私の両親はその対処法を教えたので荷物をまとめて先に進みました。私がインディアナ州立大学のスタッフだったとき、陸上競技部とバスケットボール部と野球部のコーチでありディレクターでもありました。さらに教

鞭をとりながら、修士論文を仕上げるために働きました。振り返ると、どのようにしてそれを全て成し遂げたのでしょうか！私はそれを困難とは思っていませんでしたし、言い訳をすることもありませんでした。

コントロールできないものに懸念を抱くほど、コントロールできるものに対して行うことは少なくなります。父はこの点で、しばしばエイブラハム・リンカーンを引用しました「失望よりむしろ祝福を拡大するならば、我々はすべてずっと幸せになるでしょう。」それが私たちのしたことだと思えます。

### 2.14 熱心

主に感謝し、その御名を呼び、その御業をもろもろの民のなかに知らせよ。(詩篇105章1節)

長い間、私は「チーム・スピリット」を、グループ全体の利益のために自己犠牲の精神と定義していました。それはかなり良いと考えていましたが、何か不足していました。誰かに頼まれたことや他のみんながそれをしてからという理由で、私たちが仕事をする場合には人々を喜ばせたいという意味だけですが、一方で自らが熱心にタスクを実行したい場合、私たちの真剣さが示されます。私たちは一生懸命働き、細心の注意を払い、残業もします。このことから、私は「チーム・スピリット」の定義を「意欲」から「熱心」に変えることにしました。一つの言葉が大きな違いを生みました。

同じように祈りをささげる場合、意欲的に祈るのと熱心に祈るには大きな違いがあります。私にとってそれは面倒なことではありませんでした。

私たちは、必要があるときはしばしば喜んで祈っていますが、そんなにうまくいくことはめったにありません。我々は問題を拡大しがちだと思います。父はエイブラハム・リンカーンを引用して、「失望よりも祝福を拡大した方がずっと幸せになるだろう」と言ったことがよくありました。

神が私たちのためにしてくださったことに焦点を当てるとき、私たちは神に感謝したいと思う傾向があります。私たちはジレンマを抱えているときだけでなく、あらゆる状況で真剣に神のみともに来るでしょう。

それは私たちが助けを求めることができないという意味ではありません。私たちは皆、私たちすべてが必要としている不完全なものです。弱者は通常助けを求めないので、弱いままなのです。私たちが不完全であることを認識したとき私たちは助けを求め、私たちがしていることにプラスの結果をもたらすために必要なお導きを祈り

ます。私たちが途中で感謝するとき、私たちは神の前に進んで喜んでいただけではなく、熱心にそうするように動いているように思えます。

## 2.15 良い習慣

あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。(詩篇 119 章 11 節)

私は幼いころから聖書を読み始めました。大学時代にはほぼ毎日聖書を読んでいました。ネリーと私は、結婚生活のほとんどの夜に一緒に聖書を読みました。私たち夫婦は、幼いころ父がそうしてくれたように、我々の子ども達に聖書を読み聞かせました。私は子どもの頃から学生時代まで、定期的に日曜日の教会に通ってました。そして現在までも欠かしたことはありません。

パデュー大学の学生寮に住んでいた1年生のときに、いつも誰かが部屋に入ってきたので夜の勉強はあまり生産的ではないことを知りました。そこで、私は早めに就寝し午前3時半に起きシャワーを浴びて勉強することにしました。勉強を始める前には、必ず聖書を読んでから始めるようにしていました。その時間帯は勉強を中断されることなく、他の時間帯に4時間かかっていた作業を数時間で完了することができました。

両親や妻のネリーを喜ばせるために聖書を読んでいるわけではありませんでした。聖書を読むことは私にとって楽しい日常生活です。誇りを持ってそれを言っているわけではありません。それは愛の習慣であり、義務感や骨の折れるものではありませんでした。面倒なことは一度もなく私の楽しみの習慣でした。

## 2.16 有言実行

わたしがキリストにならう者であるように、あなたがたもわたしにならう者になりなさい。(コリントの信徒への手紙一 11 章 1 節)

私は第二次世界大戦中に喫煙を始めました。バスケットボールのシーズン中はいつも辞めていました。10月の私の誕生日だけ喫煙し、その後のシーズンは禁煙を続け、シーズンが終わったら再び始めます。私はプレーヤーの前でタバコを吸ったことはありません。最終的に喫煙を辞める理由の一つとして、私を改善することでした。私自身が喫煙していることをプレーヤーは喫煙しないだろうとは期待できませんでした。

リーダーの最も必要なことは、プレーヤーの良い見本になることです。「私がする通り」ではなく、「私が言う

とおりに」というフレーズには偽善があるように感じます。禁煙についてはほんの一例です。

偽善を基盤にしたリーダーシップはプレーヤーからの尊敬を損ない、人々があなたを尊重しなければ、プレーヤーは喜んであなたのいうことに従いません。私のプレーヤーたちは、「コーチは言動を一致させ有言実行する」と称賛してくれました。

シーズンのはじめにはプレーヤーに手紙を渡します。通常、その一部は次のような内容です。

「あなたは、保護者やチームメイト、そして大学関係者を代表していることを忘れないでください。あなたの個人的な外見と言動によって決してそれらの信用を傷つけるべきではないことを忘れないでください。そして、清潔さ、清楚さ、丁寧さ、マナーは、子ども達に大きな影響を与えるものであり、あなたたちは子ども達に大きな影響を与える存在なのです。良い見本となってください。」

## 2.17 絶好のチャンス

もし人が卑しいものを取り去って自分をきよめるなら、彼は尊いきよめられた器となって、主人に役立つものとなり、すべての良いわざに間に合うようになる。(テモテへの第二の手紙 2 章 21 節)

自分の能力を磨き、自分ができる限りのベストになり、常に準備をする意欲を持っている必要があります。準備ができていれば、おそらくチャンスが来るでしょう。しかし、準備ができていなければ機会を逃してしまい、再びチャンスが来ることはないでしょう。私は、シュートのチャンスは1回しか得られないと考えているのでその準備は出来ています。

チャンスが来る可能性が低い人がいるのも真実です。我々の人生は困難で途方もなく思えることもあるでしょう。だからこそ、常に準備をしておく必要があるのです。そして、絶好のチャンスは更に重要になります。

ケニー・ワシントン (Kenny Washington) について考えてみましょう。彼は UCLA の 2・3 年生時はスターターではありませんでしたが、私がゲームで彼を使うたびに彼は常に準備ができていました。例えば、NCAA トーナメントの決勝戦において、彼は 2 年連続でコートの上で重要な役割を果たしました。1964 年の決勝、デューク大学戦で彼は 30 得点を獲得しました。翌年の決勝、ミシガン大学戦では 20 得点を弾き飛ばしました。もし、彼がチームに貢献するための準備を整えていな



かったら、良いコンディショニングを維持していなかったなら、彼はチームの要求には応えることは出来なかったでしょう。彼のデューク大学戦の功績により、彼は Sports Illustrated の表紙に飾られました。

同じ年の同じデューク大学戦でダグ・マッキントッシュ (Doug McIntosh) は、ベンチスタートでしたが、素晴らしい活躍によりゲーム終了までベンチに下がることはありませんでした。彼は翌年からスターターとなりました。1965年の決勝戦は、マイク・リン (Mike Lynn) がダグと途中交代で優勝することが出来ました。ケニー、ダグ、マイクは、絶好のチャンスに準備ができていたプレーヤーの良い例です。

## 2.18 ケーキとシュガーパウダー

これらのものはみな、異邦人が切に求めているものである。あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである。まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。(マタイによる福音書6章32～33節)

私がプレーヤーの時も、そしてコーチの時も、私は常に勝ちたいと思っていました。昨今のプレーヤーのゲームを見ても、これまでと同様に勝ちたいという願望は変わっていないことがわかります。今日のアスリートは、以前の世代のプレーヤーがチャンピオンになりたかったのと同じくらいチャンピオンになりたいと思っています。

確かに、今日のプレーヤーはたくさんの無駄な発言をして、お互いに尊重する態度が見受けられないように映りますが、これらの言動を誤解することは出来ません。この事象はオリンピックの精神から競争の重点がシフトしたことにあります。発達したメディアの報道はこの新しい言動の広がりをも助長しています。卓越したいという欲求は変わっていませんが、結果への焦点は変わりました。

誤解をしないでください。私は誰よりも勝ちたかったですし激しく競争しているゲームは重要でした。しかし、私が思っている最高の競争は自分自身に対するものです。このことを、私のチームでも行っていました。競争は他のチームに対するものではなく、私たち自身に対するものでした。改善すれば、もっと多くのゲームに勝つことはわかっていましたが、勝つことは常に改善の副産物でした。私たちが最高になりたかったのです。

十分に準備ができていれはうまくいくと思いました。

私たちが勝ったなら、ケーキにシュガーパウダーをふりかけます。しかし、勝つことがケーキだとは考えていませんでした。ゲームの勝利は、常にケーキを少し美味しくするシュガーパウダーでした。

## 2.19 みんなが先生

わたしたちはこのキリストを宣べ伝え、知恵をつくしてすべての人を訓戒し、また、すべての人を教えている。それは、彼らがキリストにあって全き者として立つようになるためである。(コロサイの信徒への手紙1章28節)

1936年に息子が生まれたとき、グロリエ協会 (Grolier Society) からポスターをもらいました。そこには、砂浜で浜辺を歩いている男の写真がありました。男が足を踏み入れようと、足を伸ばして後ろにやってきました。ポスターには、リー・フィッシャー (Lee Fisher) の詩「小さな仲間が私を追っています。」が刻まれています。その言葉は、長年にわたって私に大きな影響を与えてきました。今、あなたとそれらを共有します。

私になりたい慎重な男、  
小さな仲間が私を追っています。  
私はあえて道に迷いません、  
怯えて、彼は同じ道を行きます。

一度も彼の目から逃れることはできません、  
彼は私がどこを見ているのか、観ています。  
私のように、彼はそうなると言っています、  
私の後を追う小人。

彼は、私はいつも元気だと思っています。  
私のすべての言葉を信じています。  
彼が見てはいけない私のベース、  
私の後を追う小人。

私は行くときに覚えておく必要があります、  
夏の太陽と冬の雪。  
私は長年にわたって構築しています、  
私を追うあの小さな男。

世界で最も重要な職業は子育てです。  
2番目は教えることであり、誰もが誰かの教師なのです。

## 2.20 本に没頭する

勝利を得る者は、このように白い衣を着せられるのである。わたしは、その名をいのちの書から消すようなことを、決してしない。また、わたしの父と御使たちの前で、その名を言いあらわそう。(ヨハネの黙示録3章5節)

言語は私の家族にとって常に重要でした。私の兄弟は皆、私と同じように国語の教師になりました。私たちは父から言語への愛を得たのでしょうか。私たちが農場で育っていたとき、彼は毎晩聖書と詩を読んでくれました。今日まで、いつも聖書を一日に数回読んでいますが、特に気分が塞いだ時でも、詩を通して自分の気持ちを表現しようとすることを楽しんでます。ウィリアム・カレン・ブライアント (William Cullen Bryant)、ロングフェロー (Longfellow)、ポー (Poe)、ジェームズ・ウィットコム・ライリー (James Whitcomb Riley)、ホイットマン (Whitman) などを読むのが大好きです。

私は長年にわたって多くの個人的な詩を書いてきましたが、それらのほとんどは家族や特別な機会のためのものです。私の最年長の孫娘は、小学生のとき「大パパは詩人」という題名の作文を書いています。詩を書くときは、そのときどきの瞬間の記憶を大切にしています。

私はまた詩を書くことについて、何人かのプレーヤーを指導することを喜んでます。長年にわたり、これらのプレーヤーや他の友人たちは何百もの詩を書いてくれました。私はそれらを2冊の本に収めています。青い本は特に価値のある詩を収めたもので、もう一冊の本も同様に価値があります。

私の1972年のチャンピオンシップチームでプレーしたスウェン・ネーターは、私に100以上の詩を書きました。彼は非常に才能があります。彼の1つを除くすべての詩が青い本に収まっています。もう一人の元プレーヤーであるアンディ・ヒル (Andy Hill) は、3つの詩を書いて青い本に収まっています。

詩の才能のない他の人の詩もありますが、考えは簡単でスウェンやアンディと同じくらい意味がありそれらすべての思いやりに感謝をしています。

## 2.21 他人を助ける

わたしは、あなたがたもこのように働いて、弱い者を助けなければならないこと、また『受けるよりは与える方が、さいわいである』と言われた主イエスの言葉を記憶しているべきことを、万事について教え示したのであ

る。(使徒言行録20章35節)

あなたが言ったことやしたことは、特に見返りに何かを受け取ることを考えずにそれを行うとき、特にあなたが言ったことやしたことは有意義であることを知ることには大きな喜びがあります。あなたの贈り物は物質的である必要さえありません。笑顔、うなずき、背中を軽くたたいて、他の人を助けることは心を温かくします。長年、私は詩を引用してきました。誰がそれをどこで手に入れたかは覚えていませんが、親切さについて多くのことが書かれています。

報酬なしでは優しさは得られない、  
銀や金ではなく、主からの喜びである。

私のチームのプレーヤーにも、フロアでそのように考えさせようとしてしまし、それがフロアから離れても日常で応用されることを望みました。プレーヤーが仲間からパスを受けて得点をした時には、得点したプレーヤーはアシストパスをしてくれたプレーヤーに、感謝のジェスチャーでアイコンタクトをとって認めるまで指さして欲しいと思っていました。私は高校のチームでそれを始めました。私はまた、良い判断やヘルプディフェンス、他の良いプレーのために感謝のジェスチャーをして欲しいと思っていました。優しさはチームワークをより良くするものです。

私たちチームがプレーしたアリーナの従業員から感謝の手紙が届かなくても、私たちは他の誰よりも使用後のロッカールームを清掃しました。オレンジの皮やガムの包装紙、タオル、石鹸などがきれいになるまで、私たちは立ち去ることはしませんでした。

イエスは、「受け取るよりも、与えるほうが恵まれている」と言われました。私は確かにそれが真実であることを発見しました。

## 2.22 挑発的な言葉

悪い言葉をいっさい、あなたがたの口から出してはいけない。必要があれば、人の徳を高めるのに役立つような言葉を語って、聞いている者の益になるようにしなさい。(エフェソの信徒への手紙4章29節)

私が6年生か7年生のときに、生涯に渡り冒瀆的な言葉を使うことをやめようと誓った特別な出来事が起こりました。兄と私は馬小屋を掃除するために納屋にいました。突然、兄が馬の糞を私の顔に投げたときに、私は

シャベルを投げ捨てて挑発的な言葉を叫びながら彼の後を追っかけました。父はすぐにその争いを止めながら、私たちの話を聞いて、それから私たちを鞭で打ちたたき折檻をしました。兄がはじめに馬糞を投げつけてきたことから、私が挑発的な表現で叫んだことですが、私のほうが強く折檻されたことを今でも覚えています。

私の父は決して冒瀆的な言葉を使いませんし、私たち兄弟にもそれを許しませんでした。

私は、練習中にプレーヤーが冒瀆的な言葉を使用しているのを耳にしたときは、そのプレーヤーの練習を中止にさせました。私のプレーヤーたちは、練習というのはゲームの出場時間を稼ぐ場所であると知っていたので、私は敢えて練習を中止させることで懲戒措置としました。誰かがゲーム中に冒瀆的な言葉を使用した場合には、私はしばらく彼をベンチに座らせました。プレーヤーの言葉遣いが綺麗になるのに長い時間はかかりませんでした。私のチームには挑発的な言葉を使用するプレーヤーはいません。

かつて、私のプレーヤーの1人に、私が冒瀆的な表現を使用したかどうか尋ねました。

「全く無い」と彼は答えました。そして、「『善良・優雅・驚異』がコーチの冒瀆です。」と。

## 2.23 人種の偏見をもたないこと

もはや、ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もない。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからである。(ガラテヤの信徒への手紙3章28節)

パデュー大学を卒業後、インディアナ州で高校のバスケットボールのコーチをしました。私たちのチームは素晴らしいチームで、インディアナ州の他の高校と対戦していました。ある日、私たちはゲームのためにシンシナティに向かおうとしましたが、一人のプレーヤーの母親は息子がチームと一緒に行くことを望んでいませんでした。それは、対戦チームのアフリカ系アメリカ人とゲームをするからなのです。これは、マーティン・ルーサー・キング・ジュニア (Martin Luther King, Jr.) のスピーチやワシントンでの行進、または1960年代以降の公民権運動の前の話でした。しかし、私は本能的に何が正しいかを知っていました。父は人種問題についての私の考えを整えるのを助けてくれていました。いつも父は我々兄弟に、「自分自身を他の誰よりも優れていると考えてはいけませんが、決して劣っているとは思わないください。」と話していました。

私は、プレーヤーの母親に、シンシナティで息子がプレーしなければ他のゲームでもプレーしないことを伝えました。彼女は理解を示し、彼女の息子はゲームに参加しました。1946年にインディアナ州立大学でコーチをしたとき、私たちのチームには黒人の控えのプレーヤーがいました。リーグ戦に勝利し、カンザスシティのNAIAトーナメントに参加するよう招待されましたが、トーナメントの役員は黒人プレーヤーのクラレンス・ウォーカー (Clarence Walker) を連れてくることを許可しませんでした。繰り返しますが、私は何が正しいかを知っていたので、トーナメントに招待をされていましたが参加をしませんでした。

この時、私は政治的な声明を発表しようとしていたわけではなく、正しいことをしたかっただけなのです。あなたがチームのメンバーであるならば、あなたはチームのメンバーとしてチームの為に全てをやるでしょう。私のプレーヤーの一人はかつて私に大きな賛辞をくれました。彼は、「ウッデンコーチは人種を見ていない。ただ一緒にプレーするプレーヤーを見ているだけだ」と言いました。それを聞いて、今までにないほど良い気持ちになりました。

## 2.24 条件と約束

あなたは神に誓いをなすとき、それを果すことを延ばしてはならない。神は愚かな者を喜ばれないからである。あなたの誓ったことを必ず果せ。あなたが誓いをし、それを果さないよりは、むしろ誓いをしないほうがよい。(コヘレトの言葉5章4-5節)

戦後、インディアナ州に戻ったとき、私はやや途方に暮れていました。ネリーと私は家を失っていたので、未来がどうなるかわからなかったのです。私は恵まれていた2つの高校での職を辞め、代わりにインディアナ州立大学での職を受け入れました。順調にいけば、ビッグ10 (Big Ten) の大学やその他の主要な大学でコーチングの仕事に就く機会が与えられることを望んでいました。本当は母校であるパデュー大学に行きたかったのです。

インディアナ州立大学のチームは非常に順調だったので、2年目にチームを異動することにしました。ミネソタ大学とUCLAに空きがあり、両方の大学からオファーがありました。ミネソタ大学は中西部出身者としては、自宅が近いので好条件と考えました。ミネソタ大学の申し出を受け入れる準備はできていましたが、その前に解決しなければならない問題がありました。

ミネソタ大学の担当者は、私がUCLAに最終的な回答をする1時間前に電話をかけてきました。電話がつながればミネソタ大学に決まったことでしょう。しかし、電話がつながりませんでした。私は知りませんでした。吹雪が電話線を遮断してしまったのです。したがって、UCLAの担当者からの電話で私はオファーを受け入れることにしました。ミネソタ大学の担当者から全ての受け入れ条件が整いましたと1時間後に連絡が来ましたが、私は担当者の申し出に感謝しながらも受け入れることはしませんでした。私は、申し訳ない気持ちではありましたが、UCLAへの私の言葉を撤回することはしませんでした。

私は最初の選択ではなくUCLAに来ました。UCLAのフットボールのコーチングスタッフを務めていた大学のチームメイトが、UCLAには未来があると言っていました。吹雪のためミネソタ大学と連絡が取れなかったので来ました。そして、私は約束をしたUCLAに着任したのです。

## 2.25 あなたの役割を見つけること

あなたはそのわざに巧みな人を見るか、そのような人は王の前に立つが、卑しい人々の前には立たない。(箴言22章29節)

自分ができないことにとらわれて、自分ができることを妨害してはいけません。これは、私が人生を生きてきた最も重要な信条の1つです。

私たちは自分がコントロールできない出来事について、あまりにも心配する傾向があります。私たちはネガティブなことについて考えることに時間を費やしますが、自分でコントロールできることに集中することに費やすほうがより良い時間であるかもしれません。コントロールできないことに時間を費やすことは、コントロールできることややるべきことに悪影響を及ぼします。

UCLAに来たとき、3年契約の終わりまでには私たちがプレーできるアリーナが完成していると信じていました。正直に言えば、彼らは私に新しいアリーナを約束したわけではありませんでした。それは相互の期待でした。

長い間、私のチームは古い納屋のような体育館で練習をしていました。練習する前には、体育の授業の汚れを私も自ら床を掃除しながら取り除いていました。私たちは、公式戦ができるアリーナでゲームをしていたのでホームコートの優位性はありませんでした。しかし、私はそれについてあまりにも落ち込むことをしませんでした。

た。

それでも我々は、最終的に多くのことを達成しました。このような条件の下で、はじめの2つのNCAAトーナメントを優勝しました。もし私が否定的な感情を乗り越えなければ、それは決して達成することはできなかったでしょう。ありがたいことに、私は最終的に自分ができることに集中することができていました。私は自分が持っていたものを使って仕事をしましたが、自分がコントロールできないことについてはまったく考えませんでした。

## 2.26 永続的なもの

わたしは乏しいから、こう言うのではない。わたしは、どんな境遇にあっても、足ることを学んだ。わたしは貧に処する道を知っており、富におる道も知っている。わたしは、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に処する秘けつを心得ている。(フィリピの信徒への手紙4章11～12節)

私たち全員が平等であり、私たちは皆、自分ができる最高のものになるよう努力することができます。私たちはいつでも改善できますが、自分を他人と比較すべきではありません。私たちは他の誰かと比べようとするとトラブルに巻き込まれます。

一般的に言えば、私たちは自分が欲しいもの、通常は物質的なものをもっと持っている人と自分自身を比べています。それは良い傾向ではありません。多くの場合、富は平和や満足といった永続的なものを持っていません。多くの場合、貧しい人ほど幸せではありません。富に関して言えば、あまりにも多くの富を対処することは非常に困難であり、あまりに貧しいことに対応することも非常に困難です。必要でない資産もあれば、必要な資産もあります。中間にいることです。

誰もが自分の家族のためにできる限りのことをしたいと考えます。しかしながら、人々が物質的なことに集中しすぎると、人々は永続的なものを忘れてしまいます。すべての物質的なものは、何らかの形で消えてなくなります。私は、幸せというものはあなたから奪うことが出来ないものであると信じています。

私は大きな物質的な目標を設定したことはありませんでしたし、親愛なる妻のネリーも物質的な事柄にこだわらなかったことを大変嬉しく思っています。私たちは豪邸に住んだり、高級車を運転したりはしませんでした。十分に幸せでした。そして、私たちはいつも永続的な信

仰や家族、友人に特別な思いをよせていました。

## 2.27 リマインダーとアイドル

それゆえ、これらのわたしの言葉を心と魂におさめ、またそれを手につけて、しるしとし、目の間に置いて覚えとし、(申命記11章18節)

1943年に友人から十字架を与えられ、それ以来ポケットに入れて持ち歩いています。それは、幸運のお守りのようなものではありませんが、ゲーム中に手に持っていて緊迫した展開の時にはそれを掴んでいます。誰がコントロールしていて、誰が形取っているのかを思い出させてくれます。たぶん、審判員にとっても手に十字架を握ってれば、思い出させてくれるでしょう。ある特定の状況では「イエスなら何をしますか?」と、ポケットの十字架が私に話しかけ尋ねてきました。

私の十字架はかなりすり減っていますが、今日も持ち歩いています。かつてほど頻繁につかむ必要はありませんが、まだリマインダーがあることで安心します。数年前、別の友人が私の小さな十字架との関係を最もよく表す詩を贈ってくれました。

ポケットに十字架を入れて、簡単に思い出させます  
私がどこにいてもクリスチャンであるという事実。  
その小さな十字架は魔法でもありませんし、幸運のお守りでもありません。  
それはあらゆる身体的危害から私を守ることを意図したものではありません。  
それは全世界を識別するためのものではありません。  
それは単に私の救い主と私との間の理解です。  
ポケットに手を入れてコインや鍵を引き出すと、  
十字架は、彼が私に支払った代価を思い出させるためにあります。

日々の祝福に感謝することも思い出します  
そして、私がすることや言うことすべてにおいて、主により良く仕えるよう努力すること。

また、私が共有する平和と快適さを毎日思い出させます  
私の主を知っているすべての人と彼の導きに身を任せて

だから、私は自分のポケットに十字架を持ち、私だけを思い出させて、イエス・キリストが許すなら私の人生の主であることを思い出させます。

## 2.28 勝利を祈ること

ヤベツはイスラエルの神に呼ばわって言った、「どう

か、あなたが豊かにわたしを恵み、わたしの国境を広げ、あなたの手がわたしとともにあって、わたしを災から免れさせ、苦しみをうけさせられないように」。神は彼の求めるところをゆるされた。(歴代誌上4章10節)

1942年、ポケットに入れた十字架を渡してくれたフランク E. デビッドソン (Frank E. Davidson) は、ザ・フォーラム (The Forum) と呼ばれる異宗教間の男性クラブを運営しはじめました。日曜日の学校の時間内に開催されました。男性たちはそのクラブに出席してから自分の教会で礼拝に参加します。

私は、52週間の忠実な礼拝への参加により記念品のペンを受け取るようになっていました。前夜、私たちのチームはカトリックのチームとのブロック大会の決勝戦を勝つことが出来ました。カトリックのチームのコーチ、ジョニー・ハウ (Johnny Howe) も男子クラブに参加していました。その朝、フランクは「昨夜のゲームを観に行きました。ここにいるジョニー・ウドゥンは昨年の大会では優勝を逃したので、今年は優勝するだろうと思っていました。そして、ここにいる対戦したジョニー・ハウもプレーヤーたちと共に両チームを祝福していました。神の思し召しではないでしょうか?」と言いました。

私は誰もが勝利を祈ることを決して勧めませんでした。私たちの祈りは、ゲームの得点に向けられるべきではないと思います。それはあまりにもわがままです。私のプレーヤーたちには、神に最善の敬意を表し冷静に救いを求めることを望みました。救いを求めることは、バスケットボール・プレーヤーとしても日常生活全般においても良いことです。コートの外で悩みを抱えたプレーヤーにカウンセリングをするときには、神に祈ることを勧めていました。私はいつも、神が私たちの祈りのすべてを聞いて答えると確信していると彼らに言いました。時には答えがNOの時もありますが。

## 2.29 神の殿堂

あなたの父の神を知り、全き心をもって喜び勇んで彼に仕えなさい。主はすべての心を探り、すべての思いを悟られるからである。あなたがもし彼を求めるならば会うことができる。しかしあなたがもしかれを捨てるならば彼は長くあなたを捨てられるであろう。(歴代誌上28章9節)

ウォルト・ハントリー (Walt Huntley) の詩「神の殿堂」が好きです。1964年にコロラド州エステスパー

クで開催されたキリスト教信者のアスリートの為の会議で、この改作を初めて聞きました。

地球上のこの群衆  
彼らはすぐに忘れます  
過去のヒーロー。  
狂ったように彼らは  
あなたが落ちるまで  
そしてそれはあなたがどれだけ長く続くかです。  
しかし、神は忘れないでください  
そして彼の殿堂で  
彼の息子をただ信じることによって  
あなたの名前が記載されています。

私はあなたに言います、友達、私は取引しません  
私の名前は小さいけど  
そこに刻まれた  
星の向こうでその天体のホールで  
地球上の有名な名前の場合  
または彼らが共有する栄光。  
ここで私はむしろ知らない  
そこに私の名前があります。

妻のネリーを失うことは私の人生で最も大変なことでしたが、私たちの名前が星の向こうに書かれているので、私は再び彼女と一緒にいると確信しています。キリストは私の人生の中心にいました。

### 2.30 愛と信頼

なぜなら、わたしたちは皆、キリストのさばきの座の前にあらわれ、善であれ悪であれ、自分の行ったことに応じて、それぞれ報いを受けねばならないからである。(コリントの信徒への手紙二 5章 10節)

有名なカレッジ・フットボールのコーチ、エイモス・アロンゾ・スタッグ (Amos Alonzo Stagg) が私に大きな影響を与えました。彼は愛の役割と、各プレーヤーにとって最善のことをすることの重要性を強調しました。

スタッグコーチは、彼のプレーヤーのすべてについて賞賛しているわけではないが、しかし彼は彼らを愛していました。彼は愛を優先したコーチング・キャリアにしたいと思っていました。スタッグコーチはまた、彼のプレーヤーから最大のものを得ることは、彼らのために最善を尽くすことの結果であると強調しました。

毎年シーズン最初の練習の前に、プレーヤーに次のようなことを伝えます。

私はあなた方を同じように愛しますが、私はあなた方を同じように好きではありません。あなた方はお互いに同じことを好まないでしょう。あなた方の全員がすべて私を同じように好きではないという事は承知しています。

時には、私が二重に評価の基準を持っていると感じるかもしれませんし、また全ての人間を同じように扱うことに偏見を感じるかもしれません。しかしながら、私はあなた方には、私の判断とチームの最善の利益になると私が考えるものに従ってもらうことにより、あなた方のその行動に値する待遇を与えるように努めます。

### 3. 結語

34年間コーチとして小学校から大学、さらには国際大会代表までを網羅するように実に豊富な指導経験を持ち、NABC (The National Association of Basketball Coaches) 全米バスケットボールコーチ協会の調査研究部のチーフを26年間つとめ、全米大学対抗競技コーチ協会の会長、NABC 理事を歴任。さらに10年間にわたってNCAAバスケットボール規則委員会の委員および委員長をつとめたジェリー・クロウゼ (Jerry Krause) が編纂した「バスケットボール コーチング バイブル」の中で、ジョン・ウドゥンの自伝のなかで述べている次の一節を用い、プレーヤーおよびコーチとしてそれぞれの偉業がたたえられてバスケットボール殿堂入りしているのはウドゥン以外にはいない。実に言い得て妙である<sup>3)</sup>と述べている。

なぜコーチするのか人は私——に尋ねる。果たして、他のどこかにこんな素晴らしい人間集団があるだろうか——才能は神からの授かり物だ。謙遜の心を忘れてはならない。名声は人々が与えてくれる物だ。感謝しなければならない。自惚れはみずからがつくり出す物だ。戒めの気持ちを持たねばならない

さらに、1964年の東京オリンピックにおいて男子バスケットボール日本代表監督をつとめ、自らも日本代表の選手でもあり、東京教育大学や住友金属工業などでのコーチ経験を積み、また修行のために渡米し指導理論の幅を広げ日本全国各地のチームで指導にあたり、レベルの向上と普及につとめた吉井四郎<sup>4)</sup>は「私の信じたバ

スケッチボール」の中でコーチング・フィロソフィについて次のように述べている。

人は努力の報いが確実なものについては、どんなことでも努力を継続することは容易である。もし、今よりも2倍努力すれば必ず次のゲームに勝てるという確固たる保証があれば、おそらくほとんどの人は努力しつづけることができるであろう。しかし、そこになんの保証もなく、いかに努力しても勝てないかもしれないという可能性があるときには、自己の最善を尽くし、それを継続できる人は何人いるであろうか。継続しているうちに、自分の弱さに妥協してしまうことが多いであろう。私はスポーツマンの真の苦しみはここにあり、そしてスポーツマンがスポーツを通して人間的に鍛えられる最も大きな場がここにあると思っ

さらに吉井は、次のようにもまとめている。

コーチである以上、ゲームはすべて勝たたいのが人情である。しかし、もしすべてのゲームに勝ちつづけたら、おそらく数年もすればそのコーチはコーチングに興味を失うであろう。また、まったく勝つことのできないコーチは、遅かれ早かれコーチングに情熱をなくしてしまうだろう。この意味から、私のプレイヤーとしての、またコーチとしての経歴は、私をバスケットボールのとりこにするようなものであったといわざるをえない。神に感謝すべきであろう。<sup>6)</sup>

さて冒頭で述べたように、我々バスケットボールのコーチは、ゲームを行う限りにおいて常に勝利したいと考え、技術や戦術の指導を繰り返し積み重ねる努力を行ってきている。もちろんの事、バスケットボールに限らずすべてのスポーツ競技は技術と戦術を競い、戦略性を高め技能を身につけレベルアップを図ろうとしている。

他のチームに勝利することは、相対的に自チームが優っていることの証明でもある。勝利することで、これまで時間をかけて練習し努力してきたことが報われ、

チームが成長してきたことが実感できる瞬間を迎えられるのである。選手たちも勝利したことで喜び、感動し、これまでの練習課程が間違っていなかったことを確信するであろう。スポーツは総じて、力を比較することに重点が置かれる。過去の自らのタイムやポイントとの比較であり、他の選手との技術の差を認識することもある。

しかしながらウドゥンは、本文中「永続的なもの」に記すように、「自分を他人と比較すべきではありません。私たちは他の誰かと比べようとするとトラブルに巻き込まれます」と述べ、「物質的なことに集中しすぎると、人々は永続的なものを忘れてしまいます」。つまり「幸せというものはあなたから奪うことが出来ないものである」と言及する。

ところで、スポーツ場面での指導については、多くの競技団体が指導者ライセンスを発行し、有資格者が現場での指導を担う時代になりつつある。これらの背景から、指導現場におけるその方策については、対象者に適応したより適切な方法手段を用いて実践されてきていることが推察されるが、特に現代のスポーツ場面においては勝利至上に起因する不祥事や格差、差別などの問題が頻繁に提起されているのが実状である。

本研究を通じ、ジョン・ウドゥンの指導者哲学を精細に追究することで、バスケットボールのコーチングの原点を垣間見ることができ、いつの時代においても普遍的に援用することのできる碩学の蘊蓄であることが確認できた。

現代の高度化した複雑なスポーツ社会においては、目先の勝利を追求するだけでなく、その先にある永続的な信仰や偏見を持たない価値観、内面的な拠り所を見いだしていくことが指導の本質である。

## 注

- 1) 島崎直樹, 川井明ら (2018) ジョン・ウドゥンの指導者哲学～成功のミラミッド～, 帝京大学スポーツ医療研究第10巻, pp.1-19
- 2) 島崎直樹, 川井明ら (2019) ジョン・ウドゥンの指導者哲学～成功のミラミッド(続編)～, 帝京大学スポーツ医療研究第11巻, pp.1-18
- 3) ジェリー・クロウゼ(編) 水谷豊, 他訳 (1997) 「バスケットボール コーチングバイブル」大修館書店, p.24
- 4) 吉井四郎氏は1919年生まれ。新潟県立新潟商業学校卒業, 1941年東京高等師範学校卒業, 1970-84年埼玉大学教授, 1964年東京オリンピック大会バス

ケットボール男子チーム監督，1965-67年日本バスケットボール協会強化委員長，1992年10月没。

- 5) 吉井四郎 (1994) 「私の信じたバスケットボール」大修館書店，p23
- 6) 吉井四郎 (1994) 「私の信じたバスケットボール」大修館書店，p25

(受理日 2020年10月21日)